

教理研究院

サンクチュアリ教会およびUCIを支持する人々の言説の誤り(1)

サンクチュアリ教会は、真のお父様のみ言と伝統が真のお母様によって覆されていると主張し、お母様のなさることをことごとく否定しています。また、UCI（いわゆる「郭グループ」）は、日本で集会を行って『統一教会の分裂』（日本語訳）という書籍を広めています。その書は誤訳やみ言改竄が散見し、お父様とお母様が分裂しているかのように論じています。

彼らの主張は、真のお父様が真のお母様と共に立ててこられた勝利圏を否定するものであり、真の父母様を中心とする統一家の一体化を損ねるものです。以下、サンクチュアリ教会およびUCIを支持する人々の言説の誤りを指摘します。

なお、これらの内容を総合的に理解し把握するためには、「真の父母様宣布文サイト」(<http://trueparents.jp/>)の掲載文や映像をごらんください。

教理研究院

注、真の父母様のみ言や『原理講論』は「青い字」で、サンクチュアリ教会およびUCI側の主張は「茶色の字」で区別しています。

一、分派による「真のお母様」をおとしめるためのみ言改竄の問題

(一) み言の前後の文章を隠し、意味を誤読させる——み言を反対の意味に翻訳して悪用

様の血統を疑っていることを、真の父母の分裂であり、越えるべき試練（三八度線）として指摘された」と述べ、真のお母様を批判する文書を拡散する人がいます。

UCI（いわゆる「郭グループ」）を支持する人々の中には、「お父様は、お母様がお父

「お母様にも話して見ると言うのです、むやみに暮らすかと。お母様も三八度線を越えなければ

ばなりません。あなたはあなたが行くべき道があり、私は私なりに行くべき道があるといって行ってみるというのです。分裂しました。一パーセント、〇・

数パーセントの差があっても分裂するのです。天国の門に一緒に入らなければなりません。：（中略）：『先生は堕落の血統を相続したか、きれいな血統を相続したか』と聞くのです。

皆さんはそのように言う自信がありますか。：（中略）：原理の解釈も出来ない人が何、先生が純潔か、何とか潔かと。私がそれを知っているのだから、ここに行かないようにしました。そこに行かないようにしました。

醜いことを知っているのだから、なに、先生の血統が何、どうだと？ 堕落前に血統を汚したか？」（二〇〇九年二月二十八日）

このように、真のお母様が真のお父様の血統を疑っているみ言であるかのように翻訳します

が、この翻訳はみ言の前後の文章を隠し、誤訳を含ませて読者を誤導しています。

これに類似する訳が、UCI側が日本で集会を行って広めている金鍾奭著『統一教会の分裂』にも記載されています（一〇九―一一〇、一四八、二五〇ページ等）。

このみ言は、真のお父様が真のお母様を批判しておられる内容ではありません。文脈を踏まえて正確に訳せば、次のようになります。

「『私』が神様の代身として純潔、純血、純愛の表象となつて鏡とならねばならないのに、（皆さんは）そのような鏡になっていきますか？ 私たちのお母様にも話してみなさい、いいかげんに生きていますか。お母様も三八度線を越えねばならないのです。

『あなたはあなたが行くべき道があり、私は私の行く道がある』といって行ってみなさい、分か

れていたでしょう。一パーセント、〇・何パーセントの差が開いても分かれるのです。天国の門に共に入っていかなばなりません。堕落するとき、（アダムとエバは）一緒に堕落しました。

一緒に追い出されたのです。地獄の底まで一緒に行ったのです。『先生は堕落の血を受けたのか、きれいな血を受けたのか？』というのです。皆さんは、そのようにいう（注、純血のこと）自信がありますか？ ……原理を解釈することもできない人々が、何、先生は純血か、何の血か。私はそれを知っているのだから、この場に来ないようにしようと思

いました。そこに行かないようにしようと思いましたが、汚らわしいことを知っているのだから、先生の血が、どうしたかというのですか。堕落の前に、血を汚しましたか。…数多くの女たちが私をゴロツキにしようとして、堕落させようとするので、（私は）鍵を掛けて暮らしました。お母

様に尋ねてみてください。…うちの家で何代の孫の中で、お母様の代身として育ちうる孫娘

がいつ生まれるか？ それが私の心配なのです。七代を経ても難しいだろうと考えるのです」

このみ言は、真のお父様が食口に對し「あなたがたはどういう立場に立っているのか」と尋ねておられるみ言です。お父様は「純潔、純血、純愛」に関して食口の姿勢が間違っていることを『平和神經』の話をされながら指摘しておられます。『平和神經』は「純血」について語っているが、食口はその姿になつていないと語られ、その流れの中で「私たちのお母様にも話してみなさい、いいかげんに生きていますか」と尋ねておられます。これは「お母様はいいかげんには生きていない」という意味で語っておられるものです。そして、「お母様も三八度線を越えねばならない」立場で

あることを前提に、真のお母様が「『あなたはあなたが行くべき道があり、私は私の行く道がある』といって行ってみなさい、分かれていたでしょう。一パーセント、〇・何パーセントの差が開いても分かれるのです。天国の門に共に入っていかなばなりません」と語っておられます。この人物は、ここで「分裂しました」と訳しますが、正しくは「分かれていたでしょう」です。これは「分かれていない」という意味で述べているものであり、それを正反対の意味に訳しています。

真のお父様は、「堕落するとき、（アダムとエバは）一緒に堕落しました。一緒に追い出されたのです。だから天国に行くときにおいても一緒に行かなければならず、もしわづかでも違いが生じれば「分かれていたでしょう」と述べ、これは分かれていないという意味で語っておられるのです。

また、「先生は堕落の血を受けたのか、きれいな血を受けたのか？」というのです」と言っているのは、「先生は：」との言葉で分かるように、お母様ではなく、食口が語っている言葉として述べておられます。

食口たちが、「先生は堕落の血を受けたのか、きれいな血を受けたのか？」と語っており、先生も純潔ではなく「六マリヤ」のようなことがあると思つているようだが、事実はそうではない。「原理を解釈することもできない人々が、何、先生は純血か、何の血か」と言っているが、とんでもない話だと言っておられるのです。

真のお父様は、その直後「数多くの女たちが私をゴロツキにしようとして、堕落させようとするので、（私は）鍵を掛けて暮らしました。お母様に尋ねてみてください」と語られ、お父様がいいかげんに生きていない事実は、真のお母様が証人であると

述べておられます。

このみ言のしばらく後で、真のお父様は「うちの家で何代の孫の中で、お母様の代身として育ちうる孫娘がいつ生まれるか？それが私の心配なのです。七代を経て難しいだろうと考えるのです」と語られ、これほどの女性は何代たっても現れないくらい、真のお母様は素晴らしいかただと証ししておられます。

この人物は、み言の文脈を無視して引用し、誤訳を含ませて、まるで「お母様がお父様の血統を疑っている」かのように訳します。そして「あなたはあなたが行くべき道があり、私は私に行っていくべき道がある」と述べてみる」と述べて、真のお母様が自分かつてに生き、真のお父様と「分裂しました。一パーセント、〇・数パーセントの差があっても分裂するのです」と誤読させようと、その後を中略して、「先生は墮落の血統を

相続したか、きれいな血統を相続したのか」と聞くのです」とすることで、まるでお母様がお父様の血統を疑って問い尋ねているかのように訳して、お母様をおとしめています。このようなみ言改竄、誤訳にだまされてはなりません。

(2)「独り娘」はお父様のみ言であり、「第二の御言」ではない

お母様批判を拡散させる人たちの中には、「伝統はただ一つ！真のお父様を中心として！他の誰かの、どんな話にも影響されてはいけません。先生が教えた御言と先生の原理の御言以外には、どんな話にも従ってはならないのです。今、先生を中心として、お母様を立てました。先生が霊界に行ったならば、お母様を絶対中心として、絶対的に一つにならないければなりません。今、お母様が行く道は、お父様が今まで立てた

御言と説教集を中心として、行かなければならないのです。他の御言を述べるのを許しません。……どのような御言も、第二の御言を許しません！」(『祝福』一九九五年夏季号、六八ページ)とのみ言を引用し、「お父様はお母様を中心の一つになれと仰っているが、その際お母様に対して……他の第二のみ言を語ってはいけないと仰っているので、原理と相容れない『独生女』論を語られるお母様を中心の一つになつてはいけない」と主張します。この人物は、独生女(独り娘)のみ言が「第二の御言」であると断定します。ところが、「独り娘」については、真のお父様がみ言で何度も語っておられます。

「神様の前において、『私は独り子だ』とイエス様が言われたのです。独り子が出てきたのに、独り子が一人で暮らしたなら大変です。独り娘がいなければなりません。それで、独り娘

を探して、神様を中心として、独り子と独り娘が互いに好む場で結婚しなければならぬのです……それが『小羊の婚宴』です」(八大教材・教本『天聖經』一七六―一七七ページ)

「先生が教えた御言と先生の原理の御言」とは、具体的に言えば、マルスム選集と『原理講論』を指します。今まで「真のお母様宣布文サイト」に掲載したサンクチュアリ教会側のお母様批判に対する応答の中で、教会成長研究院は、独生女(独り娘)のみ言が「先生が教えた御言と先生の原理の御言」、すなわち真のお父様のみ言や『原理講論』と一致している点について、さまざまな観点から論じ、掲載してきました。

独生女(独り娘)のみ言が「先生が教えた御言と先生の原理の御言」に一致することについては、おいおい述べていくことにしますが、UCIを支持する人

物の「お父様は……第二のみ言を語ってはいけないと仰っているので、原理と相容れない『独生女』論を語られるお母様を中心の一つになつてはいけない」との主張は、愚かな判断だと言わざるをえません。私たちはみ言に対する無理解ゆえに、自分の判断、主張が正しいとし、真のお父様の命じられた「先生が霊界に行ったならば、お母様を絶対中心として、絶対的に一つにならないければなりません」とのみ言を軽んじることは、あってはなりません。

(3)お父様の「アベル女性UN創設大会」の叱責は、お母様に向けられたものではない

お母様批判を拡散させる人たちの中には、「お父様は、聖和される五〇日ほど前に、お母様が自分勝手にやって、真の母が不在であると語られた」とし、「オモニを私が育ててきた

よ。オモニはいません。文総裁の妻の位置もいません。自分勝手にやっている!!自分勝手に。ん。」(アベル女性UN創設大会)と真のお父様が真のお母様を叱責したかのように述べ、このみ言を「真の母の不在でみ言及されている」とし、お母様批判に利用している人がいます。

かつて、同様のお母様批判をサンクチュアリ教会側が拡散していました。この批判への応答文は、『世界家庭』二〇一六年十月号および「真の父母様宣布文サイト」に掲載していますので、それを熟読していただければと思います。

真のお父様はアベル女性UN創設大会の講演で、真のお母様を、勝利した「真のお母様(チャムオモニ)」であると紹介されました。お父様は、勝利した「真の母」のような母(女性)がいけないという意味で、聴衆に向かつて「母(オモニ)が

いません」と叱責しておられるのです。これは「真の母の不在」について語られたものではありません。今まで父なる神様だけを信じて、母のいない宗教を信じてきたことを指摘しておられるみ言です。それを正反対の意味で用い、お母様批判に利用しているのです。

真のお父様はアベル女性UN創設大会の講演で、「勝利した世界的な女性代表である真のお母様に侍り」なさいと強調しておられ、真のお母様に侍ることので「真なる母の像、真なる妻の像を確立し、真の愛の運動によつて理想的な家庭を結実させなければ」ならないと指導しておられたのです。

ちなみに、『統一教会の分裂』の表現はさらにひどいもので、「アベル女性UN創設大会で、創始者(注、お父様)が基調講演をした。基調講演文を読んでいる途中、突然、創始者は韓鶴子に向かつて怒りを露わにしな

がら、お母さんを私が育ててきた。お母さんがいません。文総裁の妻の位置もありません。自分勝手にしています。自分勝手に！と韓鶴子に向かつて、立腹され原稿を読み上げた」(二五二ページ)と記しています。が、真のお父様が真のお母様に向かつてこのような話をした事実はありません。事実をねじ曲げた、悪意をもった書き方です。

インターネットなどを通じてサンクチュアリ教会やUCI側の情報が拡散していますが、これらの情報は、真のお母様や教会を批判するために自分たちの主張に合致する部分のみをことさらに引用したり、意味が正反対になるように誤訳をしたりと、巧妙に仕組まれています。私たちは、神様―真の父母様―私という中心軸をしっかりと定め、このような悪意のあるみ言の引用、誤訳等にだまされてはなりません。